



第11期まちづくり大学

「ボランティア体験講座特別編資料」

開催日時：平成27年11月7日（土）9:30～11:30

開催場所：市民活動支援センター 講堂

**楽しく聴こう 語ろう ボランティアの世界**

**出会い 仲間づくり 新しい発見**

大阪狭山市市民活動支援センターVIC

“ようこそ ボランティア体験講座特別編へ”

★ボランティアガイダンス

ボランティアガイダンス

既にボランティア活動に参加されている方、これから始めようと考えている方また迷っておられる方にとって、少しでも参考になればと願っています。

世界共通のボランティア定義はありません

○日本の定義は

個人の自由意思に基づき、その技能や時間などを進んで提供し、社会に貢献すること

○アメリカでは

何らかの形での利益を目的とせず、他の人々を援助する行為

○イギリスでは

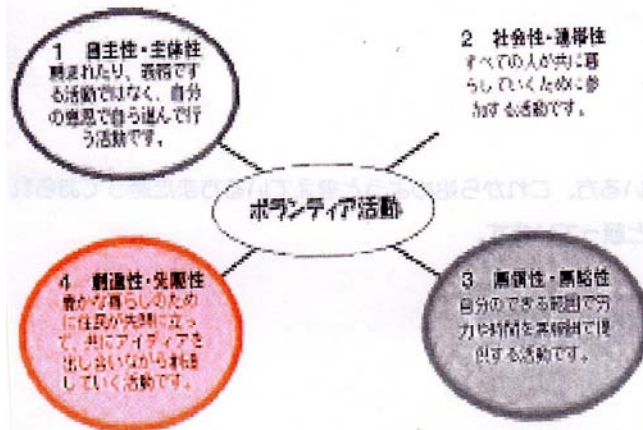
誰かのためになることを目的とし、時間を費やし、無償で行うあらゆる活動

～豆知識～

ボランティアの語源・原義

Volunteer の原義（反対語：Draft 徴集兵）は「志願兵」であり、歴史的には騎士団や十字軍などの宗教的意味を持つ団体まで遡ることができる。

ボランティア活動の基本精神



1980年以降、無償性の原則に関して、「無償」の範囲をより柔軟に考えることによって、実費弁償や一定の謝礼を受ける「有償」ボランティアが出現して受け入れられているのが現状である。

～全国で活動しているボランティア数は（平成 15 年度厚生労働省資料より）

○全国ボランティア数	740万人
○ボランティア団体数	12万団体
○団体所属数	701万人
○個人ボランティア数	38万人
○総人口比率	6%

◇ボランティアとは・・・

- ボランティアとは、多様な可能性を秘めた活動である。解釈には幅がり、国によって、時代によって、そして人によってさまざまなのです。
- ボランティアとは、「一人ひとりの尊い生命を守り合い、自分たちの考えで、自分たちの手で、誰もが安心して暮らせるわがまちを築き、平和な社会を実現するための活動、その担い手である」と考える

・・・名言集・・・

「お元気だから活動するのではなく 活動するからお元気なのです」  
「歳をとったから使えなくなるのではなく 使っていないから使えなくなるのです」

・・・名言集・・・

高齢者の問題は、高齢者が増えることではない。「何もしようとしない高齢者」や「安楽にのみ生きようとする高齢者」が増えることです。

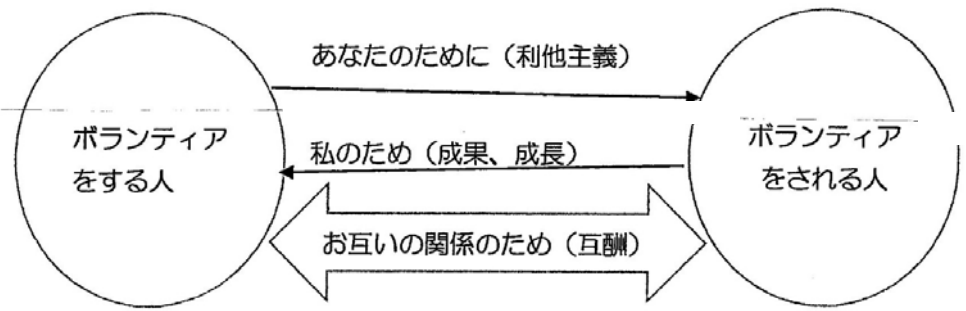
下記のものは何を表しているのでしょうか？

1 2時間×5日×50週×38年＝1 1万4 000時間

1 4時間×365日×22年＝1 1万2 420時間

～メモ～

◇ボランティアするのは誰のため？



◇ボランティアの心構えのひとつ

ひとりひとりの違いを尊重しあい、違いから学びあうことによるこびにあられており、ボランティアを行う時の心構えとしてはどうでしょうか！

—金子みすずの「私と小鳥と鈴」の一説より— “みんなちがって みんないい”

◇地域デビューを成功するために、ちょっとした心得は・・・

過去のスキルや経験を大事にしながらも・・・

- ①それらにとらわれ過ぎないこと
- ②人と話すときも、元気になるポジティブな話をする
- ③地域には多様な価値観を持つ人がおり、たとえ相いれない場合も、頭を柔軟にして聞き上手になること
- ④自慢話をしない、見栄を張らない、年長風を吹かさない

などを心掛けていると、地域社会における人の輪が広がっていくのではないのでしょうか

◇ボランティア心構えのふたつ

ボランティアや市民活動では、人間関係に上下はない、すべての人と対等である。相手は「弱者」ではなく、「異なる境遇の人」と考え、相手の意思や感情を尊重しながら活動することが求められます。

◇ボランティア心構えのみつつ

普通の人々が自分で出来る範囲で 自分の時間や力を提供しているだけのことです。

“自分でできることはないかしら？”と思ったら、それがはじめての第一歩 すでにボランティアが始まっています

・・・ボランティアを読み解くキーワード・・・

## ボランティア

ボランティア (voluntarism) とは個人の意思に基づいて、他者との連帯をめざした主体的・創造的・自律的な行為であり、他者の苦しみに痛みを感じることを。

## 利他主義

自らの利益を顧みず、極端な場合は犠牲にしてでも、他者を援助し、その人の苦難な状況を助けようとする心情である。

## 地縁型組織

ある一定の地域の住民が、その地域に居住することを契機にして、身近な地域社会の多様な問題を解決することを目的として活動する組織・グループであり、町内会並びに自治会等、また、老人クラブや婦人会・女性会ならびに青年団そして子ども会等、既存の地域を基盤とした団体等で、小地域における助け合い活動が多い。

## テーマ型組織

特定のテーマや関心を共有する人々が、居住する地域とは関係なく集まり、そのテーマに自発的に活動する組織・グループであり、福祉・保健・医療・教育・環境・国際等、特定の分野や目的が明確なボランティアグループや NPO 等で、特定の地域に限定されるより、市町村全域またはそれ以上の広域的な活動する傾向が多い。

## ワークショップ

もともと「作業場・工房」など共同で何かを作る場所を意味しており、参加者が主体的にその「場」に〔参加〕し、さまざまな「体験」のなかでの「双方向性」や「相互作用」を通じて、気づきと学びを深め合う方法である。互いに共通理解し合う中で新しい学びが創出され、その新しい学びが次の行動へとつながるため、現代演劇や現代美術、住民参加のまちづくりなどの分野を中心に広がっていたものが、市民活動分野での実践や会議の場なども多く用いられるようになってきている。

## ノーマライゼーション理念

障害の有無や年齢、性別、国籍、出身等にかかわらず、人格を尊重され基本的人権を保障される社会がノーマル（あたりまえ）な社会であり、そうでない社会は脆く弱い社会であるという考え方。1950年代の北欧の知的障害者の親の会の施設サービス改良要求運動を起点としている。バンクーミケルセンはノーマライゼーションの父と呼ばれている。

## NPO (Non-profit Organization)

民間非営利機関あるいは団体、利益を目的とせず、公益の活動を行う。1998 (平成 10 年) 年には特定非営利活動促進法 (NPO 法) が施行された。

## NGO (Non-Governmental Organization)

「非政府組織」といわれる市民による民間団体。国際連合が政府の代表の集まりであるのに対して、国際連合が対応している分野、たとえば世界平和、貧困撲滅、経済開発、人権擁護、環境問題などと同じ分野に取り組む民間団体を区別するために、国際連合が使っていたことば。日本では、上記の分野で国際的な協力・支援活動をする団体を NGO と一般に呼んでいる。

## ボランティア学習

1970年代末より財団法人日本青年奉仕会 (JYVA) が運動のキーワードとして用いてきたことばである。1982年 (昭和 57 年) 「全国ボランティア学習指導者連絡協議会」誕生後、学校を中心に全国的広がりをみせるようになる。今日では、生涯学習社会に対応してあらゆる人々にターゲットが広がり、ボランティア活動を機軸とする学習の総称となっている。



## 生涯学習

1965（昭和40年）年にユネスコで提唱された生涯教育の理念を基盤に日本型に改良された学習支援システムのキーワードである。臨時教育審議会（1984～1987（昭和59～62年）年）において基本枠組みが提起され、今日では、学校・家庭・地域・企業・NPOなどの連携によって、あらゆる人々がいつでも学習できることができ、その成果を適切に評価されるような社会づくりが目指されている。



## ボランティア活動支援

ボランティア活動にかかわっている人たちの自由意思や主体性、社会性が尊重され、豊かな活動を展開することができるように行われる支援、ボランティア活動の募集・情報提供、マッチング、広報・啓発、相談、活動にかかわる備品の貸し出しや助成金等の情報提供、保険に関する手続きほか、支援活動の形態は多岐にわたる。



## ボランタリーセクター

ボランティアやNPO,NGOといった、市民が中心となって組織した活動を進めるセクター（分野又は部門）を一般的に「市民セクター」とか「非営利セクター」という、一方、政府や自治体といった公的部門を「行政セクター」、企業などの経済団体を「企業セクター」という。社会は、これらの3つのセクターから成り立っていると考えることができる。ボランタリーセクターとは、この「市民セクター」や「非営利セクター」と同意語である、イギリスでは伝統的に「ボランタリーセクター」と用いることが多い。